

8月30日の衆議院総選挙で民主党が圧勝し、政権交代が現実のものとなりました。この一週間の各紙コラムの殆どが政権交代で湧き上がっています。

そのなかで、それ以外のコラムを拾ってみました。政権交代・政権交代とマスコミは浮かれています。本格的に政権交代がスタートするのは、9月16日以降、それまでの間も、世の中は動いています。

石橋忍月に「罪過論」というのがあります。

「罪過の語はアリストテレスが、之（これ）を悲哀戯曲論中に用ひしより起原せるものにして、独逸語（ドイツ語）の所謂（いはゆる）「シウルド」是（これ）なり。日本語に之を重訳（ちようやく）して罪過と謂（い）ふは稍々（やゝ）穏当ならざるが如（ごと）しと雖（いへど）も、世にアイデアル、リアルを訳して理想的、実写的とさへ言ふことあれば、是れ亦（また）差して咎（とが）むべきにあらず。

吾人（ごじん）をして若（も）し罪過の定義を下さしめば、簡明に左（さ）の如く謂はんと欲す。曰（いは）く、

罪過とは悲哀戯曲中の人物を悲惨の境界に淪落（りんらく）せしむる動力（モチイブ）（原因）なりと。

此（この）動力（原因）は即（すなは）ち術語の罪過にして、世俗の所謂過失及び刑法の所謂犯罪等と混同すべからず。例之（たとへ）ば茲（こゝ）に曲中の人物が数奇不遇不幸惨憺（さんたん）の境界に終ることありと仮定せよ。其（その）境界に迫るまでには其間必ずやソレ相応の動力なかるべからず。語を変へて之を言へば鬪争、鬱屈（うつくつ）不平、短気、迷想、剛直、高踏、逆俗等ありて数奇不遇不幸惨憺の境界に誘（いざな）ふに足る原因なかるべからず。罪過は即ち結果に対する原因を言ふなり、末路に対する伏線を言ふなり。此伏線此原因は如何（いか）にして発表せしむべきや。言ふまでもなく主人公其人と客観的の気運（シツクザール）との争ひを写すに在（あ）り。此争ひの為に主人公知らず知らず自然の法則に背反することもあるべし。国家の秩序に抵触することもあるべし。蹉跌（さてつ）苦吟自己の驥足（きそく）を伸ばし能（あた）はざることもあるべし。零落不平素志を達せずして終（つひ）に道德上世に容（い）れられざる人となることもあるべし。……」

とあり、「罪過は即ち結果に対する原因を言ふなり」であり、「道德上世に容（い）れられざる人となることもあるべし。」と「道德上」言い換えれば「市民感覚」から外れることも「罪過」であると言っています。

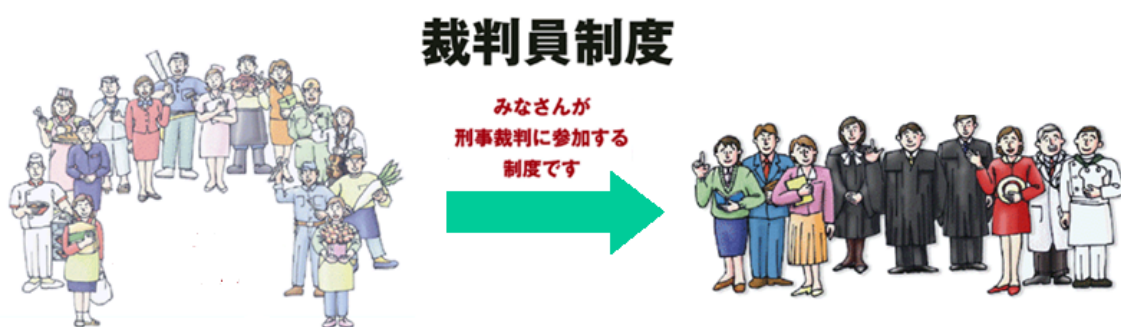
裁判員制度が始まり、その2例目で性犯罪審理が取り上げられました。マスコミは裁判員の構成が男女比5対1などを取り上げ、所謂司法関連有識者を引っ張り出し、「ああだ、こうだ」の大合唱、結局は、裁判の進め方には多少の問題はあったにはしろ、裁判員の方々

は真剣に考えられ、国民の一般常識を示されたと思われます。

求刑通りの判決結果に対し、司法関連有識者は、通常は、求刑の8掛けだというような声も聞かれていました。今まで、機械的に裁判が処理されていたとは考えたくありませんが、そのような声が出ること事態、司法関連有識者の感覚が、マスコミの感覚が、市民感覚から相当ずれていたのではないのでしょうか。

今まで、加害者の人権保護方に向き、被害者の人権を忘れていた、人権保護団体、司法関連有識者の感覚が、市民感覚と遊離していたことを、今回の裁判は、明らかにし、反省させる機会を与えました。

このような国民参加の裁判となった裁判員制度、今後の成り行きを注目したいと思います。



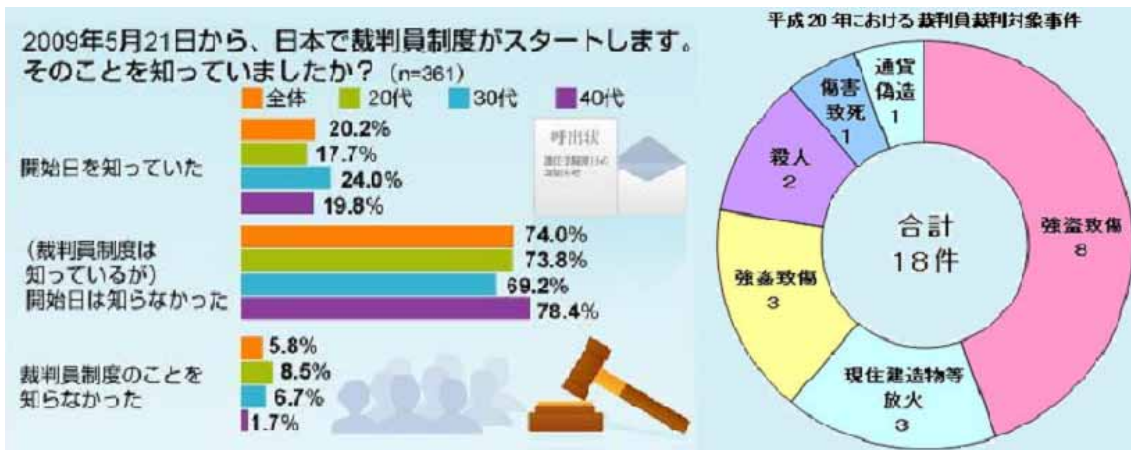
#### 毎日：「裁判員裁判：性犯罪審理 男女5対1 波紋」(9/3)

全国で初めて性犯罪を審理する青森地裁の裁判員裁判は、6人の裁判員の構成比が男性5人、女性1人となった。選任手続きに出席した裁判員候補者34人から抽選した結果だが、女性被害者が圧倒的多数の性犯罪事件で、男女比が偏ったことは、さまざまな議論を呼んでいる。

ジャーナリストの大谷昭宏さんは「性犯罪は性差で受け止め方が違う。被害者、被告とも、どこまで理解してもらえるか不安だろう。性犯罪は裁判員裁判の対象から外すか、被害者の意向を聞く選択制にすべきだ」と話した。

1例目の東京地裁(殺人)の裁判員は女性5人、男性1人(審理途中で体調を崩した女性裁判員が男性の補充裁判員と交代)。さいたま地裁(殺人未遂)は6人全員が男性。いずれも男女比が偏っており、3例目の今回でも同様のケースが起きれば、判決に影響するのではないかという懸念が出ていた。

だが、一橋大法科大学院の村岡啓一教授(刑事法)は「裁判に市民の常識を反映させる意味では、男女比にこだわるべきではない」と指摘。「東京とさいたまで、男女比が偏ったからといって、(判断に)アンバランスが生じているとは考えられない」と述べた。また、アジア女性資料センターの本山央子事務局長は「女性だから性犯罪被害者の気持ちが分かるわけではなく、個人の理解力の問題。男女比を指摘する前に、性犯罪事件の被害者に対する偏見をただすことが大切」と訴えた。



<大谷昭宏 (1945- ) >

ジャーナリスト。東京都目黒区出身。

早稲田大学政治経済学部政治学科卒業後、読売新聞社入社。

退社後、黒田清のジャーナリスト事務所・黒田ジャーナル設立に参加、黒田死去に伴い黒田ジャーナルを解散、個人事務所・大谷昭宏事務所を設立、現在に至る。

著書に『開け心が窓ならば』『関西電力の誤算』『グリコ・森永事件 最重要参考人 M』『警察幹部を逮捕せよ!』『権力犯罪』など。



<村岡啓一 >

一橋大学大学院修了・法学博士。教授。

専攻分野は、刑事法・国際人権法 刑事司法全体を、被疑者・被告人の視点から見直すことをテーマに研究。

著書に『徹底討論・裁判員制度』『刑事弁護人は「正義の門番」か?』など。



### 春秋：「所詮やじ馬」(9/4)

プロの将棋を観戦した志賀直哉が、感想を画家の梅原龍三郎に伝えた手紙が残っている。「精コンをあれ程（ほど）傾けつくして戦い、その本統のところは少数の専門家にしか分からず、しかも一般にこれ程ウケているというのは不思議なものだ」

そう。中身は分からないけれど棋士の精魂の深さは伝わってくる。作家もその魅力に取りつかれるのだろう。へぼを任じていた坂口安吾など、プロの対局に二昼夜つき合っただけで疲労困憊（こんぱい）した揚げ句に「一手でもってひっくり返るつばぜり合いの激しさは、やじ馬が見ていてこんな面白いものはない」と吐露している。

それでも、今の将棋界には誰でも分かることがある。17年君臨し続けるとてつもなさである。王様や独裁者ならいざしらず、スポーツや勝負事にその例を知らない。安吾言うところの「毛一筋の心の弛（ゆる）みによって、勝ちも負けもする」世界で、17連覇中の羽生善治王座（38）の18を目指す五番勝負がきょう始まる。

かつて大山康晴名人は「本当の強さとは頂点が長く続けられること」と言った。羽生さんも著書に「大切なのは実力を持続すること」と書いた。「17」は強さのこの上ない証だろう。ことしはイキのいい山崎隆之七段（28）が挑む。所詮（しょせん）やじ馬、毛一筋の差は見えぬとあきらめ、二人の精魂に目を凝らすとする。

<梅原龍三郎（1888-1986）>

洋画家。京都府京都市下京区生まれ。東京芸術大学教授。ベネチア・ビエンナーレの国際審査員など世界的に活躍。

第二次大戦前から昭和の末期まで長年にわたって活躍。

京都府立第二中学校（現在の京都府立鳥羽高等学校）を中退し、伊藤快彦の画塾・鍾美会で学んだ後、浅井忠が主催する聖護院洋画研究所（現在の関西美術院）に入る。

フランスに留学。帰国後、東京神田で個展「梅原良三郎油絵展覧会」を白樺社の主催で開催、この際に白樺社同人の武者小路実篤、志賀直哉、柳宗悦との知遇を得る。

作品に『横臥裸婦』『立裸婦』『雲中天壇』『紫禁城』『北京秋天』『霧島（栄ノ尾）』など。



## 天声人語：「地球温暖化」(9/1)

棚田を保存する運動に加わって、週末の一日、実った稲を刈り取った。日照不足が心配だったが、稲穂は黄金色に輝いて頭を垂れている。ざくざく鎌を動かすと、さまざまな生き物が驚いて動き出した。

大小のバッタがあわてて跳びはねる。嫌われ者のカメムシは逃げ足が鈍い。ヤゴの抜け殻が残っているのは、トンボに変身したのだろう。イモリもいる。カマキリは「なにを！」とにらみつけてくる。「螻蛄(とうろう)の斧(おの)」とはよく言ったものだ。

田んぼに水が張られている時期には、「にごっている田はよく実る」と言われるそうだ。小さい魚や虫たちが動き回るから、煙幕を張ったように水がにごる。つまり「生物多様性」の恩恵にあずかりながら、稲はすくすく育つというわけだ。

地球上の様々な動植物は互いに結びつき、バランスを保ちながら生きている。それを言う生物多様性という言葉だが、「聞いたこともない」という人が6割以上にのぼるそうだ。内閣府による最近の調査でわかった。

小社は今年、豊かな自然を残す「にほんの里100選」を選んだ。全国から4千を超す応募があったが、それらの応募文の中にも生物多様性に関する言葉はごくまれだったという。堅苦しい漢字で記す、まだまだなじみの薄い造語らしい。

きょうから9月。長雨がちだったこの夏は、猛暑の年には挨拶(あいさつ)のように口にした「地球温暖化」もあまり聞かれなかったようだ。経済も、利便も、環境も、とは欲張れぬ時代である。小さきもののかざす「斧」を思い出しつつ、人間の暮らしを省みる。

### < 棚田 >

一般に山麓や丘陵及び扇状地などにおいて、自然傾斜を緩和した階段状の水田を「棚田」と呼んでおり、地域によっては「千枚田」、「谷地田(やちだ)」と呼ばれています。

棚田地域は、中山間地域の中でも標高の高い地域に位置し、食料生産をはじめ、洪水防止、水資源かん養、土砂流亡防止、保健・休養の場、文化資源の提供など様々な機能を発揮しています。

棚田地域は、山腹、丘陵や狭隘な谷底地など厳しい地形条件の下で、高齢化や農業の担い手の減少が特に進んでいます。また、生産基盤の整備が遅れ、営農上も多大な労力が強いられていることから、耕作放棄が拡大しています。



### 編集手帳：「親が指図」(9/5)

子供の泥棒が捕まって、親が呼び出された。「注意しなければ、駄目じゃないか」「注意をするんですが、奴（やつ）がドジなもので...」。以前、寄席で聞いた小話である。

笑いは、緊張がほどけた瞬間に生まれるという。「子供が捕まる」という緊張が、「じつは親が指図していた」という“ありえない展開”で緩和され、笑うことができる...いや、できた。

兵庫県明石市で、小学5年の長男（11）に10キロ入りのコメ袋などを万引きさせた派遣社員の父親（33）と、同居している元妻（31）が窃盗容疑で逮捕された。小話はもう笑えない。

父親は2年前から、「小学生は捕まらない。捕まったら、お金を落としたと言え」と教えていた。「いやだったけれど、お父さんに殴られるのが怖くてやった」。長男はそう話している。

子供に残せるのは思い出だけだ 「長崎の鐘」の永井隆博士が病床でつづった、いつの世、どこの親にも通じる言葉である。美しい、潔い、ゆかしい思い出をのこしてやりたい（「この子を残して」）。盗む悲しみと、殴られる痛みと、肩を落とした両親の後ろ姿と、そんな思い出を残してどうする。

< 永井隆（1908-1951） >

医学博士。島根県松江市生まれ。カトリックの洗礼を受ける。

長崎医科大学（現：長崎大学医学部）卒。

満州事変に幹部候補生として出征、日中戦争に軍医中尉として中国各地に転戦し昭和15年帰還。



帰還後、助手を経て、助教授をつとめる長崎医科大学付属病院で被爆。自らも重い傷を負ったその直後から、負傷者の救護や原爆障害の研究に献身的に取り組んだ。

昭和21年教授になったが白血病で倒れ、病床で原爆の手記を執筆し始め、「東京タイムズ」に発表し、祈りと平和を訴え続けた。

『ロザリオの鎖』『この子を残して』『生命の河』『長崎の鐘』『花咲く丘』『いとし子よ』などの作品がある。

### 余禄：「芋屋の娘」(9/3)

作家の長谷川如是閑（によぜかん）の「芋屋の娘」という連載小説の続稿が何カ月も途絶えたとき、「氷屋の娘」と改題すればいいといわれた。明治時代には冬には焼き芋を商う店が、夏には氷水やアイスクリームを売っていたからだ（柴田宵曲著「明治の話題」）。

「戸の隙（すき）におでんの湯気の曲がり消え」は高浜虚子が12月8日の日米開戦後に詠んだ句だ。おでんは冬の季語、近年ではコンビニエンスストアの季節商品と思っていれば、残暑もおさまらぬ今から各社のおでん商戦がたけなわなのだという。

本紙の経済面によると、コンビニ大手の2社はすでに8月後半からおでんの販売を始め、別の大手もこの1日から参戦、値引き合戦も始まっているという。どの社も今年の新レシピによるおいしさアップをアピールしているのも共通である。

その原因となったのが今夏のアイスクリームや清涼飲料の販売不振という。ならばと、おでん販売が売り上げ挽回（ばんかい）の切り札とされたわけだ。気象庁によれば気温は平年並みの今年の夏という。だが雨が長く日照時間が少ない“体感冷夏”が、おでん商戦の前倒しをもたらしたのだ。

昨今季節違いといえ、夏の終わりから流行が始まり、今秋ピークを迎えそうな新型インフルエンザもそう。そう、もう一つ、季節外れの真夏の解散・総選挙で未曾有の“体感冷夏”に見舞われた自民・公明連立政権も忘れてはいけない。

季節感が微妙にずれた夏が終わり、例年といささか景色の違う「見なれぬ秋」を迎えた日本列島である。なかでも注目は長らく「年年歳歳花相似たり」と見えた政治が、この秋どう変わるかだ。ただし冬の前倒しはおでんだけでいい。

<長谷川如是閑（1875-1969）>

ジャーナリスト、文明批評家、評論家、作家。雅号は如是閑、本名は萬次郎。

東京府深川扇町生まれ。東京法学院（中央大学の前身）法学科卒業。

1903年から1906年まで新聞『日本』での活動を経て、1908年大阪朝日新聞社に入社、1915年には、（夏の甲子園の前身）全国中等学校優勝野球大会を社会部長として企画創設。

明治・大正・昭和と三代にわたり、新聞記事・評論・エッセイ・戯曲・小説・紀行と約3000本もの作品を著した。

大山郁夫らとともに、大正デモクラシー期の代表的論客の一人。

著書に『奇妙な精神病者--長谷川如是閑集』『長谷川如是閑選集』『如是閑文芸選集』など。

